



大阪森林計画区における 次期計画の検討方向

紀泉高原国有林（阪南市）

林野庁 近畿中国森林管理局
京都大阪森林管理事務所

次期計画の検討方向

次期計画の検討方向

- 1 公益的機能の維持増進
- 2 林産物の持続的かつ計画的な供給
- 3 地域における産業振興及び住民福祉の向上への寄与

国有林の三つの基本方針に基づき、各事業
・取組について、現行計画と同水準以上で計画していく考え。

次期計画の検討方向

また、令和5年10月に閣議決定された「全国森林計画」、令和5年12月に策定された「国有林野の管理経営に関する基本計画」を踏まえ計画する考え。

その中において、山地災害危険地区等の災害リスクの高い区域を回避し、林地生産力や地形等の自然条件、路網整備状況等の社会的条件から、「特に効率的な施業を推進する森林」を設定し、造林の省力化・低コスト化や生産性向上を図りつつ、計画的な主伐・再造林、重点的な路網整備等を推進していきます。

次期計画の検討方向

さらに、次期計画において、公益的機能の維持増進に関して、次の2つの取組について重点的に計画

1 林地保全に配慮した森林施業の推進

→山地災害リスクの高い森林の機能類型を、「山地災害防止タイプ」に変更

2 育成複層林施業の推進

→水源涵^{かん}養タイプ的人工林について「複層林施業群」の比率を高かめる（人工林の複層林）

→人工林施業に適さない森林については、針広混交林や天然生林に誘導していく（天然林施業群）

1 林地保全に配慮した森林施業の推進

森林は国土のおよそ7割を占め、地形は急峻で複雑かつ脆弱。また、近年全国各地で山地災害が激甚化しており、山腹崩壊、林道の損壊等広域にわたる大規模な山地災害が多発



国有林野では、従来から皆伐の伐採面積をおおむね5ha以下にするなど、公益的機能重視の管理経営を行ってきたが、今後、山地災害によるリスクを軽減するため、これまで以上にきめ細やかに林地保全に配慮した施業に取り組む。

具体的には、

- 山地災害危険地区等との位置関係を確認し、機能類型の見直しを図る（山地災害防止タイプへの変更）。
- 山地災害防止タイプのうち、急傾斜等に該当する小班をエリア指定し、林産物の搬出を原則として架線集材とする



山地災害危険地区の3区分

個々の国有林野を重点的に発揮させるべき機能によって5つのタイプに類型化し、それぞれの機能類型区分ごとに公益的機能の維持増進を旨とした管理経営を行います。

山地災害防止タイプ

土砂崩れや土砂の流出等による山地災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐことを目的に整備する森林で、**山地災害危険地区等**の森林が該当



自然維持タイプ

原生的な森林生態系や貴重な動植物が生息・生育するなど特別な保全・管理が必要な森林で**保護林**や**保護林に準じる森林**等が該当



森林空間利用タイプ

国民の皆さんが森林とふれあう場として、また、森林ボランティア団体等の活動の場としての森林で、**レクリエーションの森**等が該当



快適環境形成タイプ

騒音の防備や大気の浄化等生活環境の形成を目的に整備する森林で、**住宅地との緩衝帯**となる森林等が該当



水源涵養^{かん}タイプ

洪水の緩和、水質保全等を目的に整備する森林が該当し、**5つの施業群**に分類し管理



2 育成複層林施業の推進

森林・林業基本計画に掲げる森林の誘導目標に向け、近畿中国森林管理局においても、自然・社会的条件等を踏まえ、育成複層林への誘導を推進

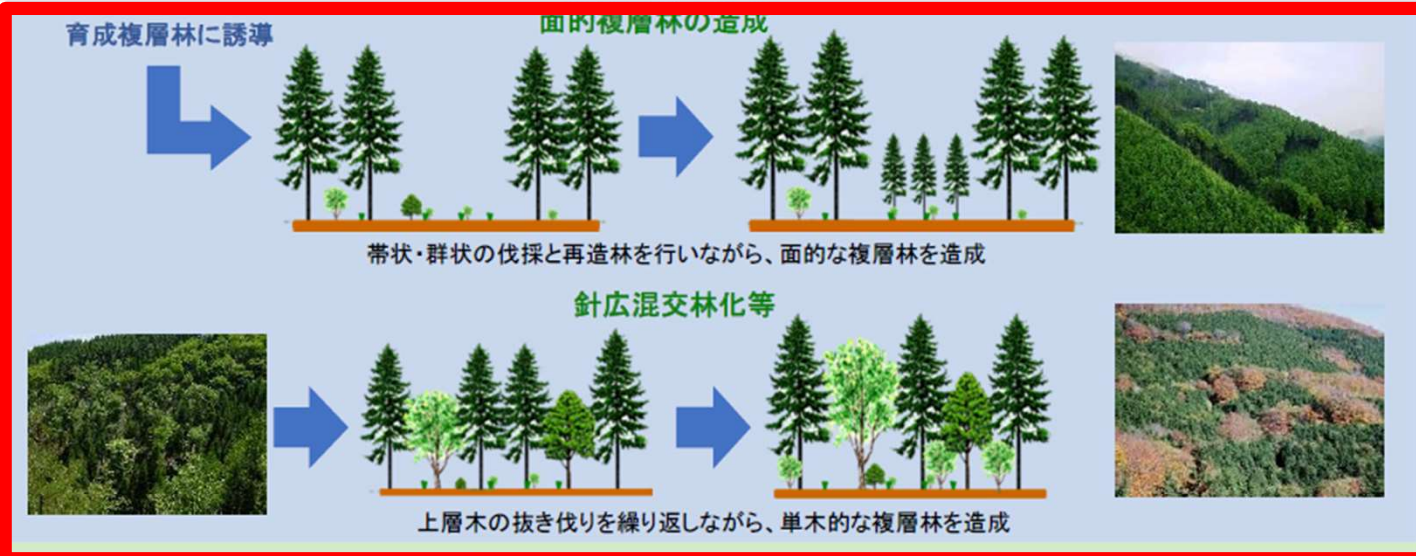


基本計画に掲げる森林の誘導目標

単位：万ha

	令和2年 (現況)	令和7年 (目標)	令和12年 (目標)
育成単層林	1,010	1,000	990
育成複層林	110	130	150
天然生林	1,380	1,370	1,360

育成複層林への誘導目標
5年間で20万ha(4万ha/年)



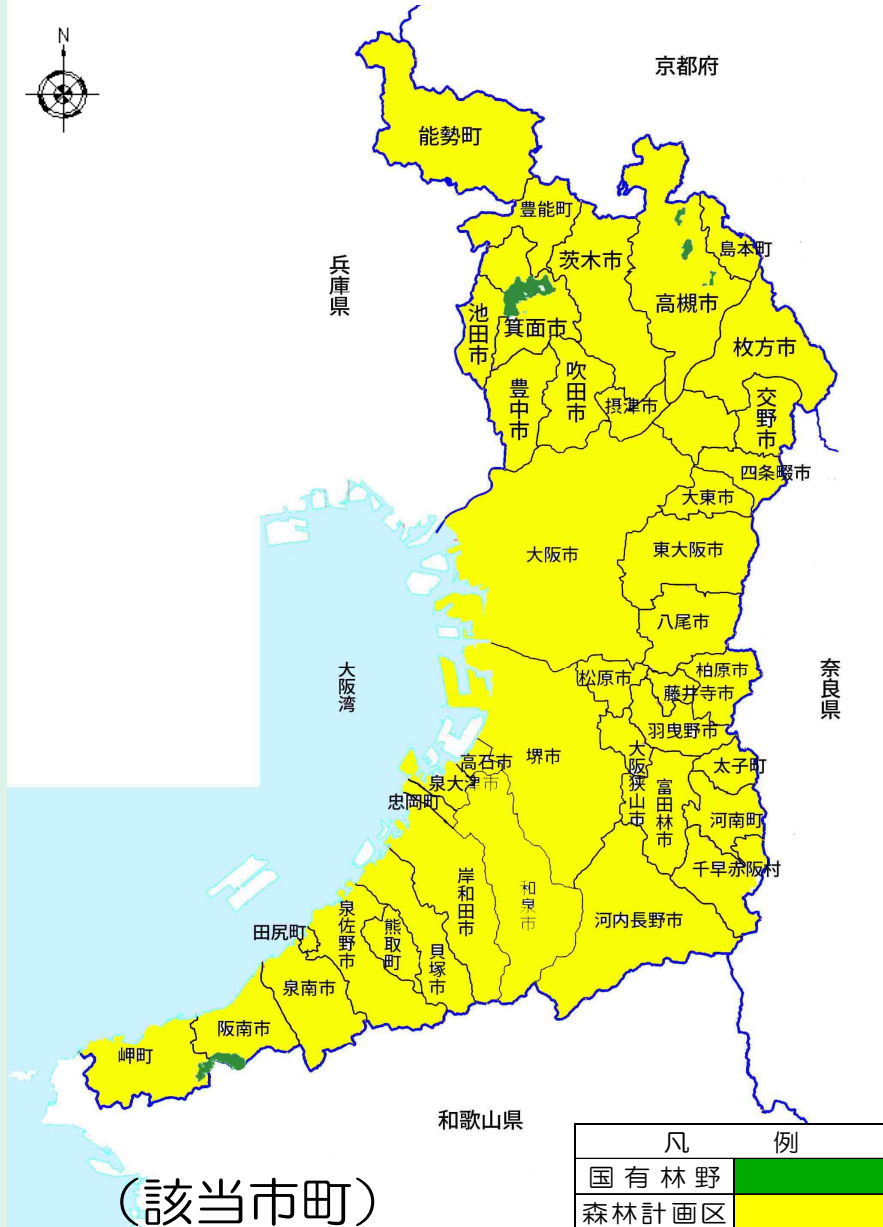
天然生林から
育成複層林に誘導

ナラ枯れ予防や放置され
た里山林の整備等

択伐を繰り返しながら、天然力を活用し、育成天然林を造成・維持

現行計画は別添を参照

【大阪森林計画区位置図】



(該当市町)

高槻市、箕面市、阪南市、岬町

- 大阪森林計画区は大阪府全域で、国有林野は北部の箕面市及び和歌山県境の阪南市、岬町に比較的大きな団地があり、高槻市に小面積の団地が点在
- 森林の総面積55千haのうち国有林野は1千ha（2%）
- 「明治の森箕面国定公園」や「大阪府立阪南・岬自然公園」が指定されており、ハイキングなど森林を利用したレクリエーションの場として多くの人々が利用

森林資源の状況

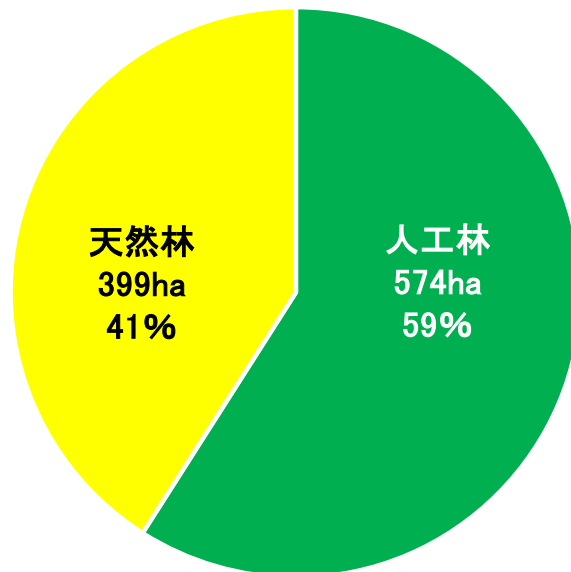
○面積割合は人工林が59%、天然林が41%

○人工林の蓄積割合は、スギ44%、ヒノキ44%

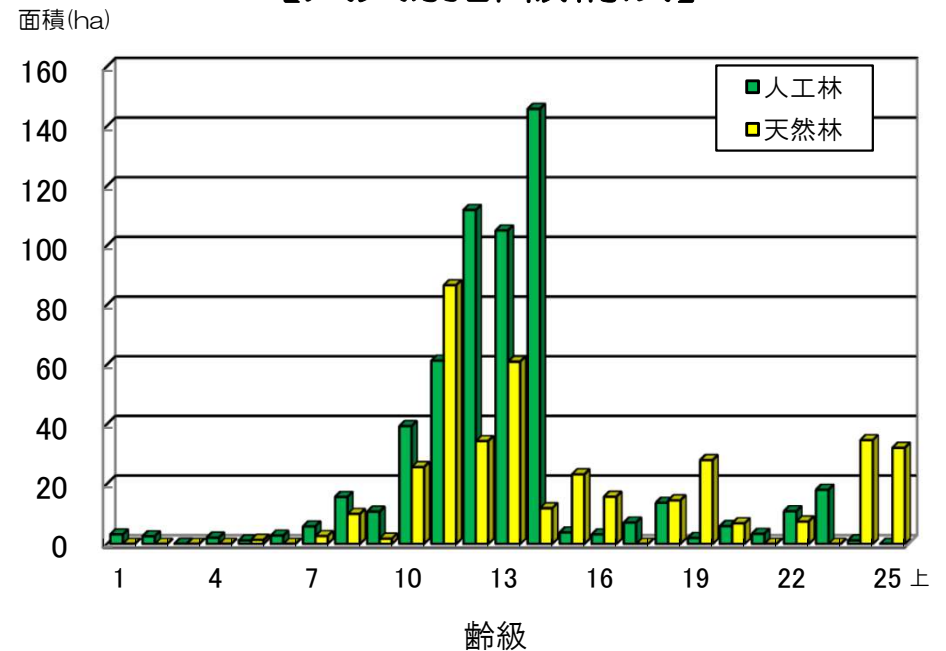
○人工林の齢級は1 2 齢級から1 4 齢級が中心

※齢級とは、森林の年齢(林齢)を5年でひとくくりにし、林齢1~5年生を1 齢級、6~10年生を2 齢級、以下3 齢級・・・と称する。

【人工林・天然林別の面積割合】



【人天別齢級構成】

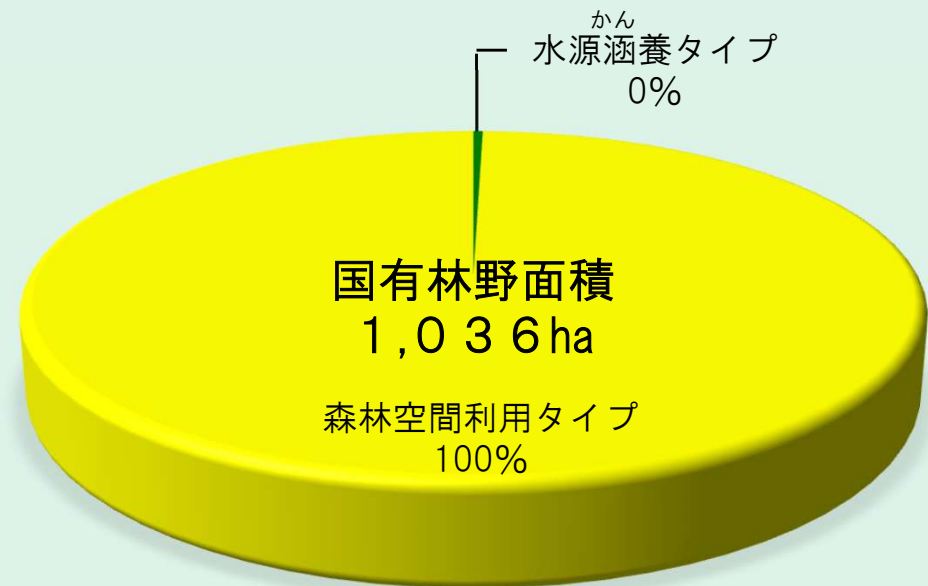


機能類型に応じた管理経営

○重点的に発揮すべき機能によって、森林を5つの機能類型（タイプ）に区分し、適切な管理経営を行っています。

機能類型	面積 (ha)	対象とする森林
山地災害防止タイプ	—	土砂崩れや土砂の流出等による山地災害や飛砂、潮害等の気象災害を防ぐことを目的に整備する森林
自然維持タイプ	—	原生的な森林生態系や貴重な動植物が生息・生育するなど特別な保全・管理が必要な森林
森林空間利用タイプ	1,032	国民の皆さんが森林とふれあう場として、また、森林ボランティア団体等の活動の場としての森林
快適環境形成タイプ	—	騒音の防備や大気の浄化等生活環境の形成を目的に整備する森林
水源涵養 ^{かん} タイプ	4	洪水の緩和、水質保全等を目的に整備する森林

【機能類型別割合】



主要事業

(現行計画量：R2～R6年度)

• 伐採量

	現行計画量	
	面積(ha)	材積(m ³)
主伐	—	—
間伐	200	23,292

(事業実績：R2～R4年度)

	事業実績	
	面積(ha)	材積(m ³)
主伐	—	—
間伐	—	—

• 更新量

現行計画量 (ha)	
人工造林	天然更新
—	—

事業実績 (ha)	
人工造林	天然更新
0	—

• 保育量

現行計画量 (ha)		
下刈	除伐	枝打
4	3	—

事業実績 (ha)		
下刈	除伐	枝打
0	7	—

主要事業

(現行計画量：R2～R6年度)

• 林道

現行計画量		
	開設 (m)	改良 (箇所)
数量	—	—

(事業実績：R2～R4年度)

事業実績		
	開設 (m)	改良 (箇所)
数量	—	3

• 治山

現行計画量	
保全施設 (箇所)	—
保安林整備 (ha)	—

事業実績	
保全施設 (箇所)	1
保安林整備 (ha)	—

公益的機能の維持増進

国土の保全

○保安林及び治山施設の整備

山地災害防止機能や水源涵養機能等を高度に発揮させるため、保安林を配備するとともに、保安林の機能を高めるための治山事業を実施しています。

水源かん養保安林



紀泉高原国有林（阪南市）

保安林の指定状況（H30年度末）

保安林の種類	面積(ha)
水源かん養保安林	910
保健保安林	647
干害防備保安林	5

※ 保安林種が重複する箇所がある

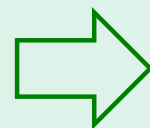
国土の保全

○保安林及び治山施設の整備

施工前



箕面国有林（箕面市）



施工後（山腹工・植栽）



鳥獣被害への対応

○ニホンジカによる森林被害への対策（捕獲事業）

近年ニホンジカの食害が深刻化し、各地で生態系や農林業への被害が生じていることから、地域社会等と連携した個体数調整を推進しています。

また、管内の自治体、鳥獣害対策協議会、猟友会等に対し、協定に基づくワナの貸与や効率的な捕獲方法の講習等の支援を実施しているところです。

鳥獣被害対策の実施状況 (R4年度)

ニホンジカの捕獲頭数	9 頭
協定の締結	1 団体



箕面国有林（箕面市）

林産物の持続的かつ計画的な供給

林産物(木材)の供給

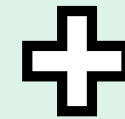
～ 地形を考慮した間伐、小径木の利用拡大 ～

- 本計画区で生産される木材全てが間伐材
- 路網、高性能林業機械、列状間伐を組み合わせた低コストで効率的な間伐を推進
- 小径木や未利用材（D材）は、木質バイオマスへの利用を拡大

低コストで崩れにくい路網整備



高性能林業機械の活用



列状間伐の導入



低コスト化に向けた取り組み ～ 生産と造林の一貫作業システム ～

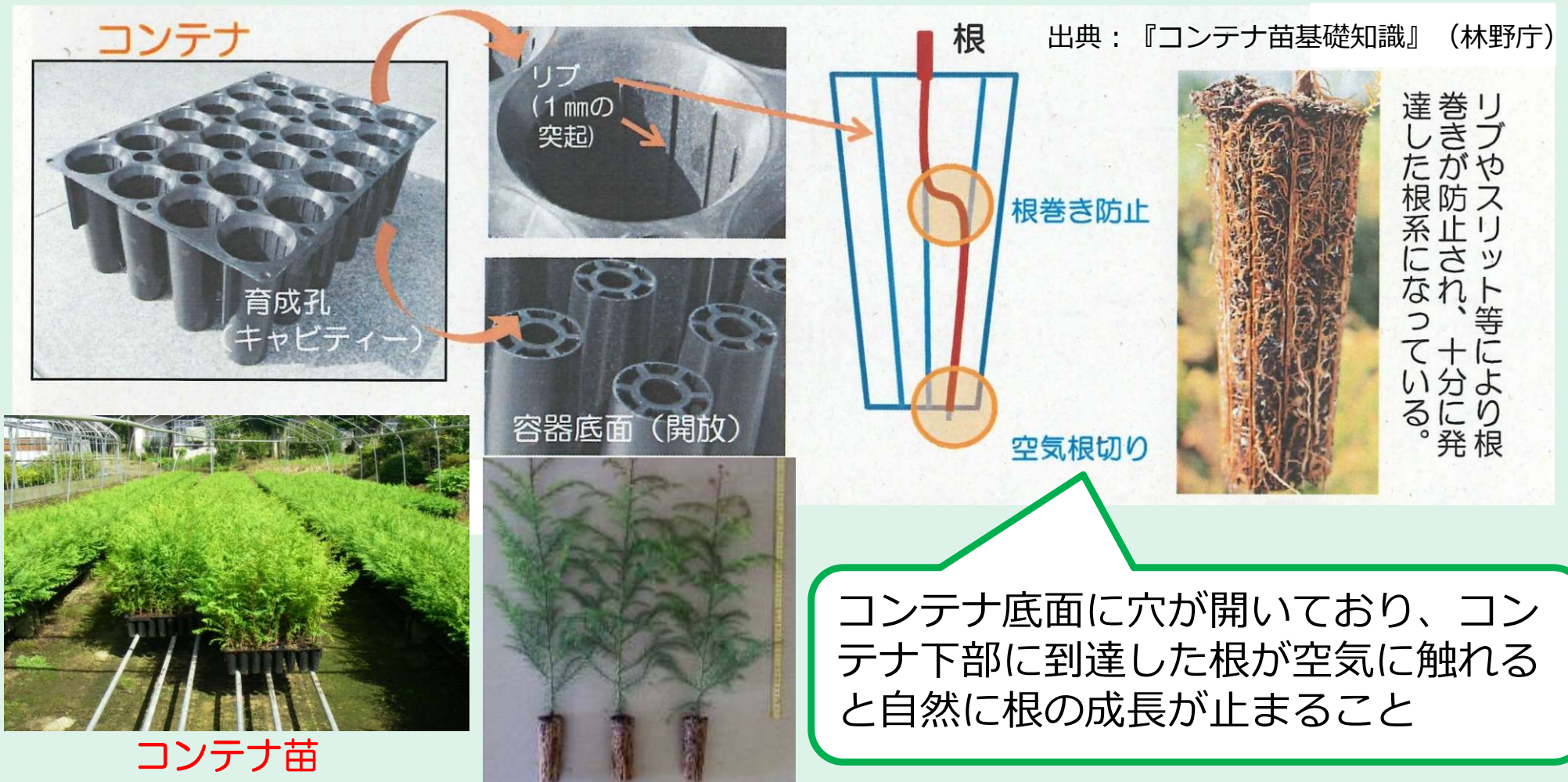
- 植付けの時期を選ばないコンテナ苗を用いることで伐採後直ちに植付が可能
- 木材の運搬機械を苗木や防護柵等の造林資材運搬にも活用することで、造林コストを低減



※一貫作業システム：伐採と植栽を一体的に行う作業

低コスト化に向けた取り組み ～ コンテナ苗 ～

- ・ 苗木を育成する容器の内面にリブ（縦筋状の突起）を設け、底面を開けることによって、根巻きしにくい苗木を生産
- ・ 根鉢がコンパクトで小さな植穴で、季節を選ばない効率的な植栽が可能



地域における産業振興及び 住民福祉の向上への寄与

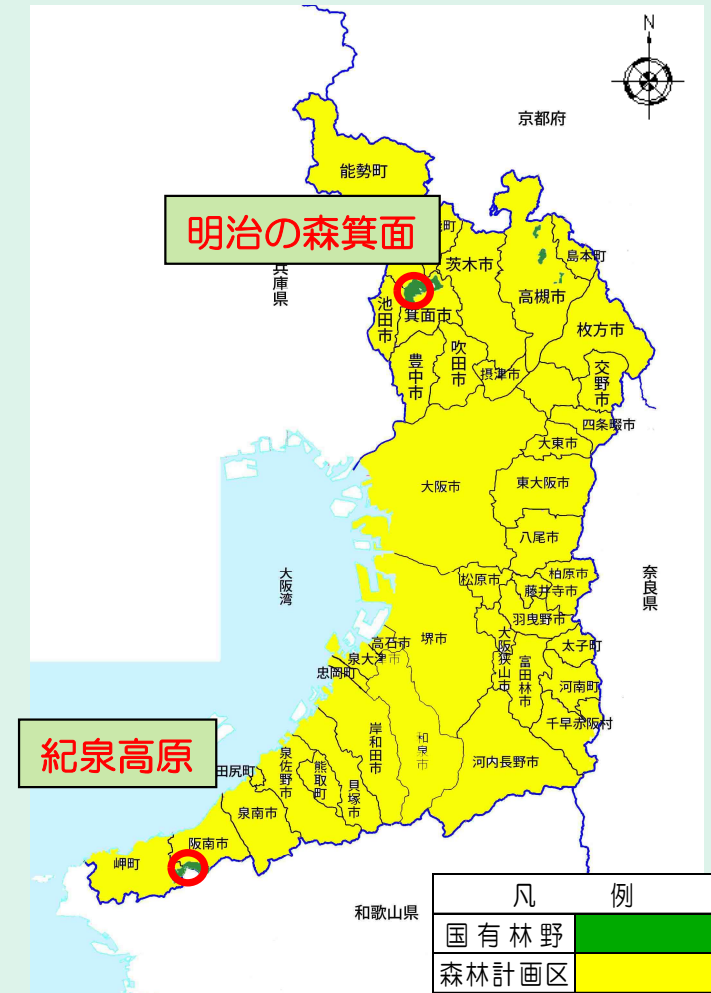
国有林野の活用

○レクリエーションの森

2箇所878haを設定し、国民の
保健・文化・教育に活用



明治の森箕面自然休養林（箕面市）



種類	名称	概要	面積(ha)
自然休養林	明治の森箕面	東海自然歩道・園地等が整備されており、ハイキング・自然観察等に利用されている	581.96
	紀泉高原	眺望に優れ、地理的条件も良く大阪方面からの入り込みも容易であり、登山やハイキングなど多くの人に利用されている	295.65

国民参加による^もり^り森林づくり

○地域住民等による森林整備

森林ボランティア活動や森林環境教育のフィールドとして国有林を提供



間伐体験

箕面国有林（箕面市）

種 類	名 称	面積(ha)	備 考
ふれあいの森	高槻楊梅山ふれあいの森	38.02	楊梅山国有林 (高槻市)
	箕面ふれあいの森	49.90	箕面国有林 (箕面市)
	箕面ふれあいの森	24.68	箕面国有林 (箕面市)
	箕面ふれあいの森	24.68	箕面国有林 (箕面市)
社会貢献の森	日本山岳会関西支部 本山寺山の森	49.52	本山寺山有林 (高槻市)
	連合大阪の森	0.40	箕面国有林 (箕面市)

森林環境教育の推進

国民参加の森林づくりを推進するため、NPO等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や必要な技術指導を行うなど、国有林野の積極的な利用を推進します。

また、国有林野の豊かな森林環境を子どもたちに提供するため、学校、自治体、森林インストラクター等多様な主体と連携しつつ、地域の要請に応じた森林環境教育に取り組みます。



萱野小学校（箕面市）での森林教室の様子

国有林で作成する森林計画

